

# 英語で伝え合う生徒の「体験」を積み上げる教科書です。

音声で「導入」、重要表現で「展開」、単元末活動で「まとめ」、見通せる単元配列で目標と評価に対応します

## 単元のまとめ（横軸）の流れ

- 語彙・言語の使用場面と働き・題材を、各学年テーマのもとで難易度の低いものから徐々に高いものへと系統的に繰り返して練習できるので、生徒は学びが積み上がる実感を持てます。
- 技能別、あるいは4技能を適宜統合・総合する活動をそれぞれのパートで繰り返し行うことで確実に定着を図ることができ、単元末活動のUnit Activityでついた力を確かめられます。
- 単元末活動で使いたい表現は本文に立ち返ってヒントを探ることができるように、下図のActivity1～4・Unit Activity・Stage Activityのタスクと本文を設定しています。

**目標**の明示

好きな食べ物について、理由や考えと共に紹介することができる。  
Unit Activity (p.26) [イチオシのご当地グルメを紹介しよう]

**Read and Think 1**

Part 1・2

[展開①：Part 1 p.20]  
[展開②：Part 2 p.21]

**Activity 2**

**積み上げ2**

Activity 1 で選んだ食べ物が、どんな食べ方ができるか、ペアで伝え合う。

**Activity 3・4**

**積み上げ3・4**

Activity 1 で選んだ食べ物について、具材や食べる季節、どのくらい人気かなどについて話したり書いたりする。

**Unit Activity**

**積み上げ5：生徒の姿を評価**

Activity 1～4 で表現したことを生かして、イチオシのご当地グルメを紹介する記事を書く。

巻末の資料編のpp.135～141 Unit Activity Plusには表現のヒントとなる例文や資料があります。コードから音声も聞けます。

**Stage Activity**

[まとめ②：Stage Activity pp.40～41]  
**パフォーマンス評価**

[まとめ①：Unit Activity p.26]

**Stage Activity=My Favorite Japanese Food**

**積み上げ6：生徒の姿を評価**

自分の好きな日本食について、カナダの中学生とのビデオレターのやり取りの疑似体験を通して伝える。

Unit Activity Plus 2

イチオシのご当地グルメを紹介しよう

What is local food?

Unit Question

What is local food?

Writing Tips 2-1

具体例を添えよう-1

特定の食べ物に関する情報を具体例に人な材料を使って見出しに追加しよう。For example 「焼きそば」の表現が使えるよ。

## 2 自己表現を助ける資料をデジタルでも！

- 伝えたいことを工夫して、「自分の言葉」にできる表現集・用例辞典 —
- デジタル用例辞典は教科書本文を用例のモデルとして呼び出せる機能です。生徒は3学年分の用例を見ることができ、収録語数は約1,000語、収録表現数は約300種類です。

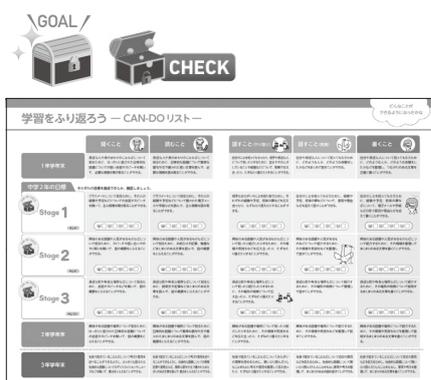
## 3 即興力を育成するための様々な仕掛け

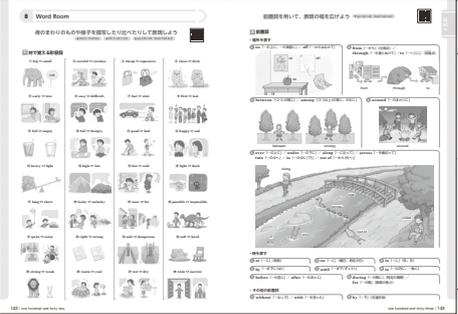
- 教科書を学ぶのではなく、教科書で学ぶために —
- 巻末のSmall Talkは、帯時間や休み時間に、気軽に英語が生徒の口から飛び出すような教室をイメージして設けたページです。自由に、楽しく、即興で話せるための練習用コンテンツもデジタルに用意しました。教科書本文に絡めて、中学生が話したくなるようなテーマで表現を特集しています。

ページを参照しやすいように、紙質を変えています。

[pp.145～147]

観点別特色の一覧

観点	具体例
<p>1 教育基本法の遵守</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●教科書の内容全体を通して、グローバル時代に生きる全ての中学生に求められるコミュニケーション能力を育みます。<b>英語を学ぶことで身につく見方・考え方が</b>国や文化の違いを越えて人と人を結び豊かなコミュニケーションをもたらす可能性に気づき、グローバルな視点での発言や行動に結びつけていくことをめざしています。(全体)</li> <li>●国際社会の一員として、<b>自国の伝統・文化を尊重</b>するとともに、他国を尊重し、<b>国際社会の平和と発展に寄与する態度</b>を養うようにしています。(pp.89～96 Unit 7、pp.104～108 Let's Read 3 など)</li> <li>●教育基本法の第2条を遵守しています。(本資料p.4参照)</li> </ul> 
<p>2 学習指導要領の遵守</p>	<p>▶ 「目的や場面、状況」に <b>目的・場面・状況</b> についての意識を促すアイコン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●中学校学習指導要領(外国語科)に示された目標に則り、コミュニケーション能力の育成をめざし、その基礎となる<b>言語材料の知識と技能</b>を基盤とし、生徒が自分で<b>思考し、判断</b>したことを適切に<b>表現</b>できることを<b>深い学び</b>ととらえ、順を追った活動を組み込んでいます。(全体)</li> <li>●文法はコミュニケーションを支えるものとして、どのような<b>目的や場面、状況</b>で使われるかを生徒が理解することを重視しています。(Unit 1～7 Previewなど)</li> <li>●英語で意思や情報を伝え合う<b>対話的な活動や協働して問題解決にあたる活動</b>を充実させ、対話的な学習を促しています。さらに、話されたり書かれたりしたことの意図や背景を推測したり、自分の考えを深めてそれを表現につなげたりするようなコミュニケーション活動を充実させています。(Unit 1～7 Unit Activityなど)</li> </ul>
<p>3 内容・系統</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●3年間の学びを見通した上で、中学2年生での到達点(ゴール)を示しているため、豊富な言語活動を通して明確な<b>到達点に向かって学習を進める</b>ことができます。(pp.2～3 「学習の見通しを立てよう」、巻末口絵「学習をふり返ろう—CAN-DOリスト—」)</li> <li>●全ての単元の冒頭に必ず到達点(ゴール)を単元の目標とセットで示しています。また、Unitの単元末活動として配置されたUnit Activityの最後にも同じ文で、振り返りや自己評価を行うチェック欄をアイコンとともに載せています。</li> <li>●生徒が学びたくなる題材、やってみたくなる活動を豊富に取り上げ、<b>積極的に英語を使う授業の場づくり</b>に資するようにしています。</li> <li>●Unitの各パートの最後にくるActivityを積み上げ、その各パートで<b>積み上げた「自分の言葉」を生かして、単元末活動のUnit Activity</b>でまとめます。さらには、<b>年3回設定されている大きなテーマ</b>を扱うStage Activityに向かって、活動を系統的に積み上げていく構成です。</li> </ul> <p>Activity (Unit内の各パート末) ⇒ (積み上げて) Unit Activity (単元末) ⇒ (積み上げて、複数のUnitを統合・総合して) Stage Activity (年3回) という順で、全体を通してStage Activityに向けて活動を系統的に積み上げています。いずれも<b>パフォーマンス評価</b>を行うことができます。(本資料p.7参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Grammar for CommunicationではUnitで扱った複数の言語材料を再度、目的・場面・状況を重視して整理し直して、Use(使い方)→Form(形)→Let's Try!(使ってみよう)の流れで適切に使えるように練習します。</li> </ul>  
<p>4 組織・配列・分量(スパイラル・学年間接続など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆組織・配列</li> <li>●全てのUnitは、既習事項を<b>スパイラルに学習</b>できる構成になっています。Unit 0は1年生の学習を引き継ぎ、Unit 1～7では紙面の二次元コードから2年生の初出の文法を扱った文法解説動画を見たり、デジタルクイズで理解度を確認したりすることができます。1年生のコンテンツに戻ってつまづきポイントを理解し直すこともできます。どのUnitも、音から導入して文字に向かう順序で4技能5領域全てをバランスよく扱います。(本資料pp.6～7参照)</li> <li>●「学び方コーナー」では英語学習のポイントやコツをいつでも参照できる巻頭にまとめ、<b>生涯英語を学ぶ主体的な学習態度を育成</b>することをめざします。2年生では、単語を効率的に覚えるための語句のまとめりや聞き手を意識した音読などを扱います。(pp.4～5)</li> <li>◆分量</li> <li>●小学校英語が教科化されたことを重視し、また実社会で目にする英文に触れられるように、教科書で扱う分量を段階的に増やしています。同時に、高等学校への接続を考え、高校入試で扱われる分量を想定して英文の量や活動の種類についても充実させています。(全体)</li> </ul>

観点	具体例		
<p>④ 組織・配列・分量（スパイラル・学年間接続など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●語彙は、小中学校の教科書やCEFR-Jの語彙リストのA1レベルを中心に選定しています。小学校で学習したとみなされる語を<b>630語</b>と設定し、それに中学校の新出語約<b>1,700語</b>を加えた約<b>2,300語</b>を扱っています。(pp.113～128 Word Listまたは本資料下図参照)</li> <li>●上記約2,300語のうち小学校既習語から<b>392語</b>、中学校新出語から<b>408語</b>の合計<b>800語</b>を「<b>発信まで使えるようになりたい語</b>」と設定し、Word Listで太字で示しています。この800語は、全ての生徒の<b>発信語彙</b>として繰り返し提示して定着できるようにしています。(下図★印参照)</li> <li>●中学校新出の1,700語は、教科書本文だけでなく本文以外の部分で扱う語も含めることで、生徒の負担を軽減しています。(資料編Word Roomなど)</li> </ul> <p style="text-align: center;">小・中学校で扱う語約<b>2,300語</b> ※★は「発信まで使えるようになりたい語」(合計800語)</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;">           小学校の既習語  <b>630語</b>  <b>(★392語)</b> </td> <td style="text-align: center; padding: 10px;">           中学校の新出語  <b>約1,700語</b>            本文 約1,200語            本文以外 約500語  <b>(★408語)</b> </td> </tr> </table>	小学校の既習語 <b>630語</b> <b>(★392語)</b>	中学校の新出語 <b>約1,700語</b> 本文 約1,200語 本文以外 約500語 <b>(★408語)</b>
小学校の既習語 <b>630語</b> <b>(★392語)</b>	中学校の新出語 <b>約1,700語</b> 本文 約1,200語 本文以外 約500語 <b>(★408語)</b>		
<p>⑤ 基礎的・基本的な知識、コミュニケーションの4技能5領域の定着の配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●CAN-DOリストに基づき、3学年を通して4技能5領域の技能が確実に育成できるようにバランスよく教材を配置しています。(本資料p.6参照)</li> <li>●「Unit」・「Stage Activity」・「Real Life EnglishとLet's Read」の3つの主要単元で、<b>知識・技能の習得と活用を繰り返しながら思考力・判断力・表現力等の育成</b>をめざします。いずれの単元でも、言語を使用する<b>目的・場面・状況を意識して活動に取り組める</b>ような仕組みにしています。(本資料p.6参照)</li> </ul>		
<p>⑥ 資質・能力の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●変化の激しいグローバルな社会で生きていくための資質・能力を重視し、英語を通じて<b>異文化理解</b>を深めたり、<b>多様性</b>を認めたりするとともに、他者への共感や思いやりを持って<b>共生社会の実現</b>をめざす態度を育成します。(全体)</li> <li>●各学年にテーマを設け、題材で扱う範囲を身近な話題から社会的・世界的な話題へと段階的に重心を移しています。2年生のテーマは、「もっと英語で伝え合おう」とし、1年生の学びを生かしてもっと英語で世界の人々とコミュニケーションを行い、よりいろいろな国々の文化や歴史に触れることによって、<b>自国である日本の魅力についても視野を広げてほしい</b>という願いを込めています。(全体)</li> <li>●技能と文法を車の両輪のように考え、学習段階に合わせた活動を扱っています。活動を通して、使える英語が身につくようにしています。(本一覽表p.8の③参照)</li> </ul>		
<p>⑦ 学習方法・授業展開への配慮（アクティブ・ラーニング、ALTとのTeam Teachingなど）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●各紙面において学習要素を定位置に置き、特別支援教育への配慮をしています。Unitでは本文下に基本文（Key Sentences）と練習（Practice）、本文横に語句欄（New Words）を配置し、関連する活動は見開きの右側に配置しています。語句欄の上にある二次元コードからは、本文と語句欄の音声のほか文法解説動画やデジタルクイズなどにアクセスできます。(p.10 Unit 1など)</li> <li>●<b>英語で授業</b>を行うことに配慮し、ペアやグループ活動を充実させたり、帯活動で継続的に行って即興的なやり取りの力をつけたりするためのSmall Talkのページを設けたりしています。(pp.145～149) また、<b>ALTとのTeam Teachingを重視して</b>、ALTと伝え合いたくなる話題を多く取り扱い、教師用指導書には発問の英訳を掲載します。</li> </ul>		
<p>⑧ 学習の習慣化への取り組み（規律・態度など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●資料編のWord Roomでは、<b>紙とデジタルの両方に語彙をジャンル別に豊富に示し</b>、自分が伝えたいことを表現するときに使えるようにしています。(p.142 対で覚える形容詞、p.143 前置詞)</li> <li>●<b>授業以外の場でも英語の音声や動画を視聴</b>できるよう、二次元コードを付しています。(p.19 Unit 2など) 二次元コードを利用できない場合は、p.1に示すURLからアクセスすることができます。教師用指導書付属のメディアにも音声を収録します。</li> </ul> 		
<p>⑨ 言語に関する配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●言語力育成への視点から、<b>国語との関連</b>を図っています。日本語で親しんだ物語を英語の原文で読む活動を取り入れています。(pp.110～112 Further Reading)</li> <li>●目的に合わせた英語の手紙の書き方について、わかりやすく示しています。(p.57) また「<b>学び方コーナー</b>」で相手意識を持ったコミュニケーションの方法についてまとめています。(p.5 学び方コーナー4)</li> </ul>		
<p>⑩ 他教科との関連</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●CLIL（内容言語統合型学習）への対応として<b>他教科での学習を生かすもの</b>、現代的な諸課題に対応するものなどを扱い、生徒の理解を深めるようにしています。(全体)</li> <li>●「資料の読み取り」の力を育成するため、<b>図表や非連続型テキスト</b>を含む教材を扱っています。(p.73、p.74、p.76、p.90、p.108)</li> <li>●世界中で使われている情報メディアや、SDGsを扱っています。(p.38 Learning Technology in English、p.68 Learning Social Studies in English)</li> </ul>		
<p>⑪ 造本上の工夫（学習への効果）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●指導時間を配当するページは増やさず、<b>生徒が発信するためのヒントを探し出す資料</b>を紙とデジタルで手厚く用意しました。</li> <li>●A4判を採用し、デジタルでは対応できない<b>手書きでの書き込みスペース</b>を保障しました。(pp.135～141 資料編 Unit Activity Plus、p.149 Small Talk) また、判型を大きくすることで写真等のレイアウトやデザインをダイナミックに、かつ見やすくしました。</li> <li>●ページ数を抑えた上、最大限に軽量化された、薄くても裏写りにくい用紙を使用しています。</li> </ul>		

## 2 対照表

2年	図書の構成・内容・主な言語材料		学習指導要領の内容		該当箇所 ページ	配当 時数
			2 内容	3 指導計画の 作成と内容 の取扱い*		
Unit 0	My Spring Vacation 春休みにしたこと	1年生の学習事項	(1)、(2) (3) ①イウエ オカ、②	(2) エカ	6~7	2
Unit 1	What can we experience on a trip? シンガポールへの旅行	be going to / 助動詞will / show+A+B / call+A+B	(1)、(2)、 (3) ①イウエ オカ、②	(2) エカ (3) イ (ア) (イ) (ウ)	9~16	8
Unit 2	What is local food? 食の多様性と変化	接続詞when / if / because / that			19~26	8
Unit 3	What kind of job are you interested in? 職業体験と将来の夢	不定詞(副詞的・原因を表す 副詞的・形容詞的用法) / It is ... + to			29~36	8
Unit 4	What is important in a homestay? ホームステイでの 国際交流体験	have to / 助動詞must / 動名詞			49~56	8
Unit 5	What design is good for everyone? ユニバーサルデザインの意義	疑問詞+to / 主語+動詞+ (人) + 疑問詞+to / 主語+be 動詞+形容詞+that			59~66	8
Unit 6	How can we make a good presentation? 好きなトピックについての 調査と発表	比較表現			69~76	8
Unit 7	What are World Heritage sites and their problems? 世界遺産の価値	受け身			89~96	8
Stage Activity	1. My Favorite Japanese Food		(1) ウ、	(2) カ	40~43	4
	2. My School and School Life		(2)、(3) ①		80~83	4
	3. Let's Have a Discussion		イウエオカ		100~103	4
Real Life English	1. 機内放送、2. 旅行先で、 3. 仕事についてのインタビュー、4. ホームステイのお礼状、 5. アナウンス・案内、6. 電車の乗りかえ、7. 買い物		(1) アウ、 (3) ①イウエ カ、②	(2) イ	17、27、 37、57、 67、77、97	各1
Let's Read	1. History of Clocks		(1) ウ、 (2)、(3) ①	(3) イ (ア) (イ) (ウ)	44~47	4
	2. A Glass of Milk		ウエ		84~87	4
	3. Pictures and Our Beautiful Planet				104~108	5
Grammar for Communication	1. 5つの文構造、2. 接続詞、3. 不定詞、4. 助動詞、 5. 比較表現、6. 受け身		(1) エ	(2) エ	18、28、 39、58、 78~79、98	各1
Learning Technology in English Learning Social Studies in English			(3) ①ウエ	(1) オ	38 68	各1
合計98						

\*学習指導要領の内容「3 指導計画の作成と内容の取扱い」について、特記のない項目は図書の構成全体について扱う。

# 編 修 趣 意 書

(発展的な学習内容の記述)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
105-68	中学校	外国語	英語	第2学年
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教 科 書 名		
2 東書	英語002-82	NEW HORIZON English Course 2		

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や 内容の取扱いに関する事項	ページ数
112	Further Reading I'll Always Love You	2	第2 2 (1) エ ※上記項目において過去完了形と仮定法 過去完了は扱うこととされていません が、原文のまま掲載しました。	0.25
			合計	0.25

(「類型」欄の分類について)

- 1…学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等）以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2…学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容